

和菓子について

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

皆さんは6月16日が「和菓子の日」だということをご存知でしょうか？そこで今回は家計調査の結果から日本独自の文化、伝統を伝える和菓子への支出について見てみましょう。

和菓子・・・「ようかん」、「まんじゅう」、桜餅やかしわ餅などの「他の和生菓子」を合計したもの。

年齢の高い世帯で購入

世帯主の年齢階級別に1世帯当たりの年間支出金額を見ると、世帯主の年齢が高い世帯ほど支出金額が高くなっており、30歳未満の世帯に対して70歳以上の世帯は約3.5倍となっています。なお、年齢階級別に平成17年と12年の支出金額を比べてみると、30歳未満の世帯で若干増加していますが、それ以外の年齢階級では減少しています。（図1）

節目に和菓子

次に、月別の支出金額について見てみますと、春のお彼岸や桃の節句（ひな祭り）がある3月が最も高く、次いで端午の節句（子どもの日）がある5月となっています。また、8月、4月、12月もその他の月に比べて支出金額が多くなっています。（図2）

金沢市が1位

最後に、1世帯当たりの和菓子の年間支出金額（平成15年～17年平均）を県庁所在市別で見ると、第1位は金沢市で、次いで名古屋市、京都市、熊本市の順になっており、かつての城下町や古都の所在地が上位にきています（図3）。

平安時代前期の848年に、当時の仁明天皇が、疫病除け、健康招福のために6月16日に16個の菓子や餅を神に供えたことに由来しています。（全国和菓子協会）

図1 世帯主の年齢階級別和菓子の年間支出金額

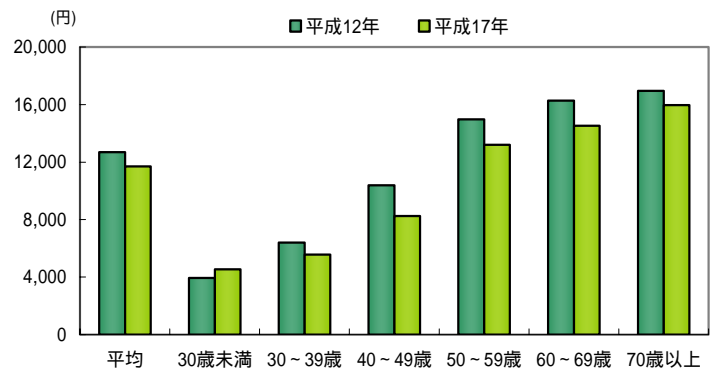


図2 和菓子の月別支出金額（平成17年）

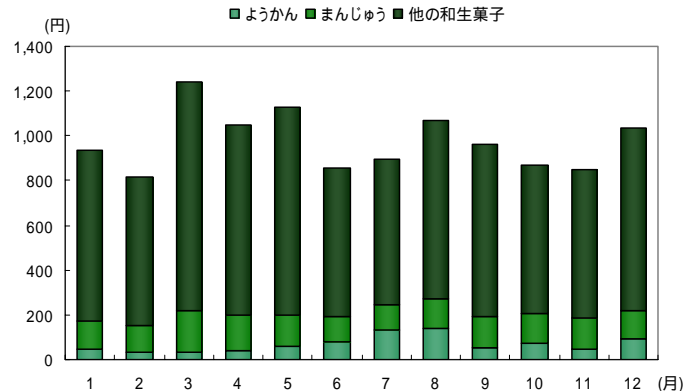


図3 和菓子の県庁所在市別支出金額

